

亡き祖父たどりフィリピンへ

【南城】第2次世界大戦時にフィリピンで消息を絶った祖父の足取りをたどろうと、宮里強さん(54)＝南城市＝ら孫4人が5月15日に沖縄をたち、現地を訪れる。強さんは「父やおじさんたちの代わりに墓を訪ね、親孝行を果たしたい」と話している。

南城市佐敷出身の故・宮里源一



祖父・宮里源一さんの渡航記録を見る(左から)孫の平良滋さん、宮里強さん、宮里弘さん＝南風原町

大戦で不明の宮里さん孫4人

さんは1929年に出嫁ぎで単身フィリピンへ渡ったが、戦争を挟んで行方不明になった。沖縄の家族には45年7月に現地で亡くなったと伝えられていた。

一方、源一さんがフィリピンで妻子をもうけた情報も寄せられたが、妻タマツさん(故人)や残された家族の希望で、これまで詳しい調査は行われなかった。

強さんの照会で、フィリピン残留日系2世の支援に取り組む「フィリピン日系人リーガルサポートセンター」が現地を調査。ディゴス市に源一さんの娘のコンチータ・ミヤサト・バシランさん(73)が生存していることが分かり、今回の訪問が決まった。

強さんは「祖母や父らは祖父に複雑な気持ちがあったかもしれないが、手掛かりが見つかってうれしい。行くなら今しかない」と期待している。